

探究 PFⅡA 科学プレゼンテーション研修

9月から文理探究科2年生は、これまでの探究活動をポスターにまとめる時期になります。まとめ作業や発表が本格化する前に、今回、プレゼンテーションについてきちんと学ぶ研修を行いました。生徒にとって学びの多い研修となったようです。

開催日 令和8年9月8日(火) 10:20~12:10

場 所 大村高校 5F 視聴覚室

目 的 科学プレゼンテーションやポスター作成、口頭発表等の留意点を理解することにより、それぞれの課題探究の成果を他者にわかりやすく伝えるための力を育成する。

対 象 2年文理探究科 80名

講 師 菅 向志郎 先生

(長崎大学大学院 総合生産科学研究科(水産学系) 魚病学研究室 教授)

内 容 (1)プレゼンテーションの基本

(2)研究ポスターの制作や口頭発表における留意点



生徒の受講感想

- ・ 私が特に印象に残ったことは、“発表を聞く人(聞き手)”と“発表を行う人(話し手)”では、**聞き手の方が使うエネルギーの量が多い**、と知ったことです。
聞き手は、聞いて・理解して・考えなければならず、エネルギーを多く使っていることを自覚しました。菅先生がお話しされたように、**話し手と聴き手が使うエネルギーが等しくなるように**、ポスターは聞き手に**伝わりやすく、文字を少なめにする等配慮して**作ろうと思います。
- ・ 講習会の最初に、「**“プレゼンテーション”は『贈り物』**」という意味だと教えていただきました。私は、スライドやポスターを作るときに、調べた内容など多く盛り込んだ方が伝わる、と思っていました。しかし、そうではないことに気づき、これからは贈り物を送るようにプレゼンしようと思いました。そして、「**最初からいいスライドを作ろうとせず、ブラッシュアップし続けることが大切**」だということも学びました。菅先生、ありがとうございました。